

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜各務野高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月6日(木) 13:15~16:30
- 3 開催場所 岐阜各務野高等学校 大会議室
- 4 参加者

会長	大平 和子	各務原市立鵜沼第二小学校 校長	
副会長	山口 貴江	鵜沼西保育所 園長	
委員	卯野 仁志	元各務原区長	
	下田 未歩	各務原商工会議所青年部 事務局長	
	長縄 康浩	フェニックス総合クリニック 副院長	
	林 克幸	サン・ビジョンジョイフル各務原 施設長	
	廣瀬 真一	公益財団法人かかみがはら未来文化財団 事業推進グループ長	
	星山 道弘	株式会社 日本温浴研究所	(欠席)
	若原 隆司	令和6年度PTA会長	(欠席)
	細田 麗香	令和6年度PTA副会長	
学校側	野田 正明	校長	
	浅井 智世	教頭	
	加藤 講平	教頭	
	柳原 英紀	事務長	
	鈴木 雅雄	教務部長	
	深見 哲男	生徒支援部長代理	
	鹿野 知幸	進路支援部長	
	上野 豪史	特別活動部長	
	小又 友樹	専門教育部長	
	秋田 寛	ビジネス科主任	
	宮本 崇義	情報科主任代理	
	石樽 裕加	福祉科主任	
	渡邊 琉	教務部記録係	

5 会議の概要(協議事項)

○今年度の学校経営について

意見1: 学校のことをもっと外部に売り出すべきである。中学3年間だけで進路決定は難しいと思われるため、小学校からキャリア教育を行っていく必要がある。小学生にも、岐阜各務野高校ではどの学科でどのようなことを学べるのかを知ってほしい。そのための魅力の発信と体験が不可欠である。他市の小学校では、高校の行事でのコラボレーションや、総合的な学習の時間で高校生からのアドバイスをもらう交流等を行っている。例えば、課題研究発表会の参加や高校での日常の見学等が考えられる。

意見2: 学校の魅力をホームページで紹介する際に、生徒たちがもつ映像制作の能力を生かすことができるとうい。

意見3: 課題研究発表会では、今まで取り組んできた成果を最大限伝えようとする姿勢がすば

らしかった。特に、福祉科の発表では、生徒たちが行った劇の様子から、1年間を通してたくさんの準備をしてきたことが伝わった。どの学科の発表も完成度が高かった。

意見4：課題研究発表会における生徒による反省の中で「自分たちではここまでしかできなかった」という発言があった。来年度の後輩が引き継いでいくような「つながりのあるプロジェクト」があってもいい。一回で終わらない、卒業生も参加し意見交換できるような機会があるとよい。卒業生から最新の技術を学ぶことも可能になる。生徒だけでなく卒業生や教員の刺激にもなる。これらの取組は、スクール・ミッションの実現につながる活動になる。

意見5：課題研究発表会は、学科の特徴が活かされ、身近な課題を多角的にとらえる、いい発表会だった。アウトプットだけでなく、過程も大切にしていた点が評価できる。

意見6：多くのイベントや学校の様子を、保護者にも是非見てもらえるよう、オンライン等による配信を検討してほしい。

意見7：ビジネスプランコンテストでは、1年間のプロセスの中で生徒たちに学びがあってよかった。残念な結果となったチームもあったが、生徒たちは活動を通して多くの反省を得られたと思う。グループワークができる生徒だけでの取組ではいけない。生徒の役割分担が大切である。他責ではなく、自責で考えるマインドは本当に必須の能力である。

意見8：達人カップに参加した生徒は、仲間と何かを計画し実行することが本当に楽しいと言っていた。課題研究発表会で発表されていた飲料水やにんじん等を、達人カップのような場で開発し、商品として売り出して欲しい。他学科とのタイアップをもっと検討してほしい。

意見9：今回の報告でスクールカウンセラーやスクール相談員による対応について具体的に聞き、支援内容に間違いはなかったと確信した。生徒も大事だが、教員も健康を維持し、楽しんで働くことができるようにすることが重要である。

意見10：今の時代の生徒は、コロナ禍がもたらした閉鎖性によって孤独化し、孤立に慣れてしまっているため、迷ったときに他者に相談ができない傾向にある。それでも、常に声掛けを行い関わり続け、先に相談できるしくみが大切である。教員による多くの取組や、生徒に真摯に向き合う姿に感動した。

意見11：夏祭り等、自治会の活動への参加協力に大変感謝している。生徒の地域行事への参加を通して、地域の意見の取り入れができるとよい。

意見12：包括的に、いろいろなものを「ごちゃまぜ」にして学ぶことが大切である。異色なコラボレーションが何か新しいものを生み出していく。今後何を生み出していくかに期待する。

意見13：企業とのコラボレーションでは、生徒自身の取り組みたいことを模索・提案し、実践する環境があることで生徒たちのやる気や自信につながる。

意見14：スクール・ミッションについて、端的で、大変よい。目的が明確になり、内容もすっきりした。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会で、委員から得られた、意見や提言を今後の学校運営にいかしていく。